

Title	米国経済の一側面：その地域的構造に就いて
Sub Title	
Author	小島, 栄次
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1947
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.40, No.10/12 (1947. 12) ,p.596(48)- 626(78)
JaLC DOI	10.14991/001.19471201-0048
Abstract	
Notes	慶應義塾九十周年記念論文集：第二輯
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19471201-0048">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19471201-0048</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 米國經濟の一側面——その地域的構造に就いて

小島 榮次

## 一、緒言——國民經濟の地域的構造に就いて

一國民の經濟は、他の諸側面と共に地理的形態の側面、則ち地理的分布に關する側面を持つ。この地理的形態はまた、次の二方面の現象から成立つて居る。第一は、國民經濟を構成する經濟現象の分布する土地の擴がり則ち經濟圏の面積と形態、及びその圏内に分布する經濟現象の全體の種類と量に關するもの、第二は、それ等の分布の形態に關するものである。

この二方面は相互に不可分の關係にあるが、各國の經濟力比較が行はれる場合、或は國際間の地域的分業が考察される場合には、主として第一の方面が注目される。また一國內に分布する經濟現象と地理的條件との關係に就いての問題なども、この方面に屬するものとして取扱はれることが多い。米國に關しては、古くからこの方面が注目されたと云ふべきで、その歴史の當初から、そこに分布する經濟現象と分布しない現象、或は資源の分布から考へられた將來の可能性などが、内外の注目を惹いた。また近年にも、戦前に世界資源再分割の要求及び廣域經濟圏などの問題に關連して、米國の富源が注目されたことは周知の事實である。然し乍らこの方面は、特に一國民經濟の地理的形態を

研究する題目としては、次の方面に比較して興味も重要性も少いやうに思ふ。蓋し斯かる意味の分布は、生産と地理的條件との關係を考察する場合を除けば、場所乃至土地と特に關連せしめずに問題とされることが多いからである。例へば米國が、鐵・石炭・石油・棉花・或は食糧などを豊富に産出することが問題とされるのであつて、國內の生産地點の如何は多くの場合問題でない。

も一つの方面は、一國經濟現象の地理的分布形態に關するものである。ここに分希の形態といふのは、分布する位置と密度乃至頻度とを意味するのだが、例へば農業或は工業の分布の仕方、或は米作地・鐵鋼業の分布の仕方のみ、單一の或る産業乃至産業部門の分布形態を先づ問題にすることも出来る。また各種經濟現象全體の総合的な分布の仕方を問題にするにも出来る。その場合には、地域的自給自足・地域的専門化・地域的分業等の現象が注目される。米國に關しては、この地域的専門化及び分業の現象が早くから地理學者及び史家の認めるところとなり、殊に近年は National Resources Committee, The Structure of the America Economy, Part I Basic Characteristics June, 1939. の第四章「地理的構造」及び Harold Hull McCarty, The Geographic Basis of American Economic Life, New York, 1940. の優れた研究がある。(註一)

註一 マッカータイ教授の書には、横溝直二譯「アメリカ經濟地理」昭和十七年、生活社刊があり、三田學會雜誌、昭和十八年二月號にその紹介の拙稿が載つて居る。尙吾邦では、河

出書房版「世界地理」第十五卷、北亞米利加、昭和十五年刊、が比較的最も詳細にこの地域的相違を記述したものと思ふ。

ところでこの地域的専門化・地域的分業は、相互に關係ある諸現象の地理的分布が、或る秩序の下に一國の内外にわたつて一つの全體を構成して居る状態であつて、これを國民經濟の地理的構造と稱することが出来る。更にまた

米國經濟の一側面——その地域的構造に就いて

何時かの特色を持つ幾つかの地域から組立てられるといふ意味で地域的構造とも云ふことが出来る。一國に苟も國民經濟と稱し得るものが成立して居れば、その國民經濟を向上させる諸經濟現象の分布する場所と場所との間には、當然に何等かの秩序に基づく組織的な關係が成立して居る筈であつて、國民經濟の側面として、必ず地域的構造がある。然し米國經濟のそれは非常に異色あるものと思はれるので、今こゝにその状態を略述し、その特色を考察してみたいと思ふ。但し國外の地域はこゝでは取上げず、米本土内の極めて特色ある地域的専門化及び分業に就いて述べる。(註三)

註二 國外の地域は、植民地・貿易市場・投資市場等から成り、本國內の諸地域と組織的な全體をなす。米國の場合、例へば加奈陀・南米・その他(國內から移動した工業の問題などが

あるが、他日の研究にゆづる。孰れんせよ、異色ある本國內の地域的構造を記述するには、國外の地域を同時に取上げずとも差支ないのである。

## 二、地域的分業状態の概略

前掲マッカーティ教授の著書は、諸産業の分布状態に基いて國土を一〇個所の地域に區劃して居る。この區劃は主として一九三〇年度國勢調査の資料に據るもので、恐慌以後の變化を示して居ない。それ等の變化の中には、持續的な性質のものも少くないのであらうから、右の區劃が現在の實情を示すものとは必ずしも云へない。またこの區劃設定の仕方には若干不満足と考へられる點もある。然し私がこゝに取上げようとする問題には影響がないと思ふので、マッカーティ教授の説くところに従つて、米國內の地域的分業を略述する。加ふるに、この種の地域的考察は他の地理書にも見られるが、この書は經濟學と地理學の深い理解を以て書かれて居り、最も優れたものと思はれるのである。(註三)(註四)

註三 尙、資源委員會の報告書は、各種經濟現象の分布に就いて一四枚のドットマップを掲げ、各地域間の分業を自ら観取させるが、それ等を綜合して地域區劃を行はうとはしなかつた。

註四 これ等の地域區劃の仕方は、概ね大差がない。中央部から西方を地形に基いて區劃し、東方を主として氣候によつて區劃するのが普通である。唯、C・J・ヒッチ著「アメリカの經濟力」(佐藤克己譯、昭和十七年、學藝社刊)に掲げられ

た圖は、州境を用ひて南北に二分し、東西に三分し更に北東部に別に一地區を設けて、全國を七區とする。これは、官廳統計なばに使用されて居る州境を用ひた九區域とも全く異なるもので、他にこれに似たものを求めるならば、電力關係で設定されてる七區(これも大部分州境で區劃される)が挙げられるのみである。要するにヒッチ氏の區劃は非常に不適當であると思はれる。

さてマッカーティ教授は米國全土を一〇の地域に分ける。西經一〇〇度線が東西の凡そ中央を縦斷して居るが、その邊りで南北に國境から國境まで擴がる細長い形の「大平原地方」Great Plains Regionがある。その西に「ロッキー山岳地方」Rocky Mountain Regionが北西から南東へ走り、更にその西には「ロッキー山麓からキャスケード及びシエラネヴァダ兩山脈に至る廣大な「山間高原地方」Intermountain Plateau Regionが區劃され、その西側に太平洋岸地方」Pacific Coast Regionが細長く南北に走つて居る。大平原地方から東は、東西に延びる六つの地域が六段に重なつて區劃される。そのうち五つは不規則な楔形で、最北には西側を頭に東側に尖端を向ける「北部湖水及び森林地方」Northern Lake and Forest Regionその南に東側を頭に「工業地帯」Manufacturing Beltが重なり、その南には西側を頭に「玉蜀黍地帯」Corn Belt次に「アパレチア山脈地方」Appalachian-Ozark Region更にその南には「棉花地帯」Cotton Beltが、孰れも同じやうな形で區劃される。最南端に「メキシコ灣」大西洋海岸地方」Gulf-Atlantic Coast Regionが、フロリダ半島を中央にして南西から北東へ細長く延びて居る。

米國經濟の心臓とも云ふべき地域は、北東部の工業地帯であつて、西端はシカゴ及びミルウォーキー附近から東へ



實際上それ等大都市の經濟組織の一部をなす郊外工場及び衛星都市(三)牛乳及びそれと同様に腐敗し易い食糧の生産を近接都市の爲めに行ふ近郊型農業地(四)この工業地帯内の消費の爲めに生産する鑛産業地帯から成つて居る。この型の經濟生活が他の地域の經濟生活と非常に異なることは云ふまでもない。他の地域では、都市は概ね周圍の農村に奉仕する地位にあるが、この地域では、都市は地元・周邊の地區のみでなく全國に奉仕し、全域の農村が近接都市に奉仕して居る。(McCarty, op. cit., pp. 476-676. 参照)

工業地帯の北には北部湖水及び森林地方が連る。この地域は、ミネソタ・ウィスコンシン兩州の大部分とミシガン州北半球に擴がり、更に紐育州北部及びニューイングランド北部へ飛んで居る。寒冷な氣候と瘠薄な土壤とを全域共通の特色とするが、北部と南部に程度の差があり、その他の條件の差も伴つて、特色を異にする南北二地區に分かれる。北部は過去の濫伐の爲め生産力の衰へた森林地區で、農業では馬鈴薯を多産する。然し商品を供給しない自給農家も少からずあり、林業・鑛業・狩獵等を兼ねるものもある。むしろ全國最大の鐵鑛石生産地として特色づけられる地方で、ミネソタ・ウィスコンシン・ミシガン三州に跨がるシュールピアリア鐵鑛地方は、年々全國の約八割を生産する。これに對して南部には、ミネソタ及びウィスコンシンに酪農業に専門化した地方があり、東部にはチーズ西部にはバタの生産が主として行はれる。一九三五年にこの西州からバタを全國産額の二・六割、チーズを五・七割産出した。(Ibid., pp. 248-292. 参照)

工業地帯と湖水及び森林地方の南に接して玉蜀黍地帯がある。西端は南ダコタ及びネブラスカ兩州の東部から、アイオワ州を中央にして、北はミネソタ州西南部、南はミズーリ州北半分、東はイリノイ・インディアナ二州の北部とオハイオ州の西部に擴がつて居る。玉蜀黍栽培及びそれを飼料とする肉用家畜の飼育を主とする農業地帯で、中心部

では肉用家畜の販賣から所得の二分の一を得て居る。然し乍ら、玉蜀黍と小麦・燕麥等の輪作、牛豚鶏の飼育、酪農品・鶏卵の生産等にわたる多角的經營が行はれる。玉蜀黍栽培に適した肥沃な土壤と好良な氣候、家畜の飼育には適するが作物栽培に不利な傾斜地を持つ地形、等の地理的條件を利用して、一戸當の農地はそれ程大きくはないが、(普通一六〇エーカー即ち約六四町歩)最も均齊のとれた經濟が行はれ、經濟的に最も安定した農業地帯となつて居る。(Ibid., pp. 294-327. 参照)

玉蜀黍地帯及び工業地帯東部の南に接して、マッカーティ教授の所謂アパレチア州オザーク地方がある。これはポトマクツツ南のアパレチア山地から、ミシシッピを越えてオザーク臺地及びオワチタ臺地にわたる地域で、山地と溪谷の交錯する複雑な地形を持つ。山地には貧農の自給農業が行はれ、低地には高度の商業的農業が發達して居る所もあり、更に石炭・石油・鉛・亜鉛等の鑛産業が廣く各地に分布して居る。一つの地域として最も統一性の少ない地方であるが、要するに丘陵が全域を蔽ふ事實から統一性が生じて居る。即ち低地ですら、山地の爲めに狭く限定されて居るので、その發展を妨げられてるのである。斯くして農家は、二箇所の烟草栽培地帯を除いて、どの作物にも専門化することなく、専門化のないことがこの地域の農業の特色とされる。但し烟草は、ヴァージニアから南北カロライナ州へかけての地區と、ケンタッキ州からテネシ州へ擴がる地區とで、全國産額の八割以上が産出される。またこの地域内には、全國でも重要な二つの炭坑地區、即ち西ヴァージニア州南部及びその附近の地區と、イリノイ州南部からインディアナ州西部・ケンタッキ西部に跨る地區があり、ミズーリ・キャンサス・オクラマ三州にわたる鉛及び亜鉛の全國最重要産地がある。炭坑地區と大體同じ地方に石油の産出もある。(Ibid., pp. 390-443. 参照)

アパレチア州オザーク地方の南には、西はテキサス州の東半分、オクラマ州の南半分の地方から、東は山麓臺地を

北カロライナ州まで棉花地帯が擴がつて居る。これは棉花生産に専門化した地方で、全人口の半がその生産又は取引によつて生計を立てると云はれて居る。國內は勿論外國へも大量に供給することは周知の事實であつて、この地域の全作付面積の三分の一が棉花栽培に充てられ、特に適地とされる地區では七割以上に及ぶ程であるから、棉花單作の農家が多い。然し乍らミシシッピ河の東と西とを比較すると、西には殊にテキサス州に富農多く、東は一般に貧農地帯となつて居る。従つて棉花生産といふ點を除けば、全地域の農家にそれ程の統一性はない。またアパレチア山麓臺地南部には、低賃銀労働と水力とを基礎とする新興工業地帯があり、殊に綿工業は重要な發展を見せて、ニューイングランドを壓倒して居る。更に重要な礦産物としてミシシッピ河以西の諸州の石油、アラバス州北部の鐵と石炭がある。尙もう一つ重要な産業として木材生産があり、次に述べる海岸地方と合せて、全國産額の三分の一乃至二分の一を産出する。(Ibid., pp. 329-338, 参照)

次にメキシコ灣、大西洋海岸地方は、テキサス州からニュージャージー州南部に達する狭長な海岸平野とフロリダ半島とにわたる地域で、一體に高温多雨である爲め、北部の都市白蔬菜と落花生、西部の米と甘蔗、フロリダ半島の早期蔬菜と果物、等の特殊の生産もあるが、雨量過多・沼澤地・森林等の爲めに、穀物・棉花・烟草・酪農品等が有利に生産されない土地が多く、従つて自給農業を営む農家が少くない。(Ibid., pp. 445-473, 参照)

上記の六地域が區劃されるのは、氣候の相違に基くところが大きい。勿論その他にも種々の要因が働くが、氣候も重要な要因の一つである。しかも緯度の相違が生ずる氣候の相違を相殺するやうな大きな地形的障壁がないので、その爲めに、各地域が夫々東西にのび南北に列ぶことになる。ところが大平原地方から西には、ロッキー・キャスケード及びシエラネヴァダと云ふ大きな壁が南北に走り、従つて氣候も緯度の關係よりは地形の關係に強く支配されるので、結局、南北にのびる四つの地域が、東西に列ぶことになる。

大平原地域は、ロッキー山脈の東に擴がるなだらかな傾斜の草原地帯で、東部と北部では小麥の栽培が行はれ、西部と南部では氣候乾燥の爲め放牧が行はれて居る。最も大規模で粗放的な經營が一般に行はれる地方で、殊に北部春小麥地帯では、屢々一〇〇〇エーカー以上のものがある。各小麥地帯のうちキャンサス中央部は、第一次大戦前から開發されて居る最も古い土地で比較的小規模であるが、それでも三―四エーカーで、玉蜀黍地帯普通農家の二倍ある。放牧場は一〇〇〇乃至二〇〇〇エーカーに達し、時に一〇〇、〇〇〇エーカーに達するものもある。例外的なのは全域に散在する灌漑地の農業で、遙かに小規模集約的な經營を以て、牧草・豆・果物・馬鈴薯・蔬菜等を生産する。殊に南部のものは重要で、テキサス州は全國の約三分の一のグレープフルーツを産し、冬期蔬菜の産地としても重要な位置を占める。また農業以外には全域にわたつて石油産地があり、殊にネブラスカ州以南の石油は、全国的に最も重要な産額を持つて居る。南グヨタの金も、米本土では加州に次いで第二位を占める。(Ibid., pp. 211-241, 参照)

大平原地方の西にロッキー山地が一地域として區劃される。山地のことであるから、小部分の土地を除いて農業は行はれず、夏期に放牧が行はれるだけである。むしろ林業及び鑛産業が卓越する地域で、特にモンタナ州の銅、アイダホ州の銀・鉛・亜鉛・アンチモニー、コロラド州の金・銀・モリブデン・タンクステン等は、全国的に重要な産額がある。尙地元としては、この他に石炭・石油等が重要であり、アイダホ州及びモンタナ州を主とする木材生産もこの地域の主要産業の一つであるが、孰れも全国的には重要でない。(Ibid., pp. 178-209, 参照)

ロッキー西麓からキャスケード及びシエラネヴァダ山脈までの地帯は、起伏の多い乾燥した高原である點に、共通

の特色を持つ地域である。北部ではコロビア高原に全國でも有数な小麦産地があるが、その他の土地では灌漑によらねば農業が困難であり、ワシントン州の林檎、南部の果物・蔬菜・棉花等は、すべて灌漑によつて栽培される。殊に南部には高温の砂漠があり、放牧も不可能であるが、その他の地方では放牧が廣く行はれ、高温で牧草も枯れる地方では、夏に家畜を山地へ移動させる。ロッキー山地と同様にこの地方でも鑛産業は重要な地位を占め、ユタ・アリゾナ・ニューメキシコ・ネヴァダの各州は、銅・銀・鉛・モリブデン・ウラニウム・ヴァナデウム・ウムの全國的主産地である。(Ibid., pp. 129-177. 参照)

太平洋岸地方では、北部と南部との間に氣候の著しい相違があり、その二地區間に一つの地域としての統一性は少ない。北部は木材の全國第一の産地であるが、農業は穀物・果物・酪農・蔬菜等の産地が混在し、これと云つて特色はない。それに反して加州は、極めて異色ある農業即ち農産物中で價格の最も高い果物と蔬菜に専門化した農業を持ち、一九三九年度に全國産額の五割以上を生産したもののみを数へても、葡萄・レモン・無花果・オリヴ・オレンジ・レタ・イヌ・花野菜・グリーンピース・蒺藜草等がある。その他石油及び金の鑛産業、それ等食糧品・鑛産物の加工々業、或はまた映画航空機その他の工業等、農業・工業とも比較的新しい部門に専門化して居る。(Ibid., pp. 48-127. 参照)

### 三、地域的構造の特色

米國經濟の地域的専門化は上述の如く全國にわたつて行はれて居る。東北部工業地帯は、全國及び海外から集めた原料に加工して製品を全國へ送り、これに對して湖水及び森林地方は鐵鑛石と酪農品を、玉蜀黍地帯は肉類を、アラバラチア・オザーク地方は烟草と石炭を、棉花地帯は棉花と石油を、メキシコ灣・大西洋海岸地方は蔬菜と果物と米と木材と石油を、大平原地方は小麦と家畜と石油を、ロッキー山地は鑛物を、山間高原地方は鑛物と家畜と羊毛を、太

平洋岸は果物と蔬菜と石油と木材と映画と航空機を供給する。自給自足の生活は、市場から遠い且つ交通の不便な土地、しかも寒冷か過濕かの氣候上の悪條件、瘠せた土壌或は急峻險阻な地形等の不利な條件の重なつた地方に、それに近いものがあるが、これは極めて狭い地域に限られる。これに反して、最も商業的な農業地帯の「アイオワ州の農家の如きは、生産物の九割を販賣して、消費品は殆どすべて購入すると云はれる。(註六)

註六 Ibid., p. 310. 尙 The Land Planning Committee of the National Resources Board, Maladjustments in Land Use in the United States. Wash., D. C., 1935.

p. 15. に據れば、國勢調査に現れたところでは、一九二九年に次の諸地方の農村が生産物の九割(價格)を販賣したといふ。これは郡別の平均で、大きい農家で殆ど全生産物を賣ることが、各郡の平均を高めて居る。九割以上販賣する地方は、アイオワから西及び南西方の大部分の州、イリノイ州北

部及び中央部、インディアナ、方ハイオ、紐育、マサチューセツ各州の一部、ニュージャージー州の大部分であつた。販賣が五割に達しない農家は國勢調査では「自給農家」と云はれるが、一九二九年には、これが全國で、専業農家の〇・八割、五〇万戸あつた。南部アラバラチア地方にこれが最も多く、東部ケンタッキ州では幾つかの郡が二・五割しか販賣しなかつた。

この地域的専門化が單なる専門化でなく、地域的分業として全國經濟の地域的構造へ組織されて居る状態は、まだこれを明確に記述する資料を持たない。然し乍ら、少くともこの専門化そのものから、分業状態の存在が明白に推測される。またそれが高度に組織されて居ることは、資源委員會が指摘して居る次のやうな事實からも窺はれる。

(National Resources Committee, op. cit., pp. 41-47. 参照) 即ち原料生産地から完成品の消費地までの間に、生産・加工・消費の諸過程が或る秩序を以つて分布し、物資はその間を流れる状態のあることである。例へば西部の小麦は、太平洋側ではポートランド・スポーケン等、内陸側ではミニアポリス・オマハ・キャンサスシティ(キャンサス州)等で製粉され、最後の消費地に分布する製麵工場でパンにされる。また高原地方や大平原の家畜は、大部分玉蜀黍地

帯へ賣られることで肥育された後に屠殺場へ賣られる。主要屠殺場は大部分玉蜀黍地帯又はその近接地區にある。即ちシカゴを始めとし、セントポール・スウシテイ・オマハ・キャンサスシテイ(キャンサス州)・セントルイス・シンシゲイ等である。イリノイ以東の東北部一四州は、全米の約一・四割の土地に約四・九割の人口が集中して居る都會人口の多い地方であるから、肉類も主としてこの地方に向けられ、西部から来た原料に加工した製品が大部分東へ運ばれるのである。皮革も同様で、玉蜀黍地帯の内部・シカゴ附近・ネブライイングランド等の製靴業地へ賣られる。この他棉花から紡織を経て被服品になるまでの生産地・加工地の分布・鐵鑛石から鐵になり更に機械その他になるまでの諸過程の地理に就いても同様な事實がある。このやうな地理的な組織は勿論他の諸産業にも見られるのであつて、この事實は正に高度の地域的分業の存在、地域的構造の存することを物語るものと云へる。ヒッチ氏は「アメリカの經濟力」の中で、「アメリカは經濟的單位でなく、種々の異なつた地方經濟の集會である。」(前掲書、三三頁)と云つて居るが、地方經濟の單なる集合では決してないと思ふ。米國が全體として一つの經濟單位を構成して居るのである。

ところで地域的分業は、勿論米國に限つて存するものではない。どの國でも苟も國民經濟と稱し得るものを持つ以上は、國內各地の間に必ず何等かの形に分業がある。然し乍ら米國のやうな形が見られる國は他に一つもないと思ふ。即ち前述の地域的専門化と各地域間の組織とは、經濟的發展の高度に達した國であればどこにも見られるであらうが、その形態の上で、米國の場合は次の三つの事實が著しい特色を與へて居る。

その第一は、地域的分業の單位である高度に専門化した地域に、極めて廣大な面積を持つものが多いといふことである。マッカーティ教授の著書にも、その他の文献にも斯かる地域の面積が示されて居ないが、(註七)マッカーティ教授の區劃圖から大體の見積りをすれば、例へば工業地帯の面積は、最も内輪に計算しても現在の日本の面積に近い。(註八)勿論これは、京濱・阪神・北九州等の工業地域と違つて、工場群の間に廣い畑・酪農場・鑛山・山林などがあり、日本の工場地帯とは非常に様相が違ふであらうが、それにしても多數の都市・郊外住宅地・工場を持ち、(註九)濃密な交通網を持つこの地域の景觀は、日本の工業地帯と質的に全く異なるものではない。この他の地域でも、玉蜀黍地帯の如きは工業地帯よりも更に廣く、ミネソタ・ウィスコンシンの酪農地帯・大平原の冬小麦地帯・及び春小麦地帯・同じく大平原の南北二つの放牧地帯等は、孰れも多少小さくはなるがそれでも猶非常に廣大である。例へば春小麦地帯の面積はキャンサス州よりも大きい。假如同州の面積としても日本の約半分より稍大きい。(註一〇)また棉花地帯の中で特に棉畑の密集地區が三個所あるが、その最小のものが略々關東地方と同じ面積、最大のものはその二倍位あると思はれる。二個所の烟草地帯・加州の蔬菜・果物地帯も、これと同様な面積を持つ。これ等の地域のうちで大平原放牧地の廣さは、それが人間の營造物で満たされて居ないといふ理由で、比較的に重要性が小さいが、他の地域に就いては、斯くの如く廣大な面積を持つことは重要な意義があると思ふ。(第五節參照)米國全土の地勢が、大きくこれを見ると比較的單純であると同時に、各地域内の地勢も概ね單純であることが、その地域内に生じて居る統一性に重要な關係を持つことは明かである。アパレチア・オサーク地方の如きはその例外をなすものである。これに對して、他の國々では、稀に大面積國に於いて廣大な面積の専門化地域を見るけれども、それが一國內に多數に存在して分業的關係に立つといふ場合はない。(註一一)また面積の小さな地形の複雑な國では、同種類の經濟活動に専門化した小さい地域が各地に分散する。一連の接續地帯をとれば、それが相當の面積である限り、逆に多種類の經濟活動を混在せしめることになる。斯くして米國の如き分布の形態は、他の國にこれを見ることが出来ない。

註七 原資料の一九三〇年度國幣調査から計算すれば分る筈であるが、私はまだそれを見て居ない。  
註八 ニューイングランドの半分、紐育州全部、ニュージャージー州半分、パンシルヴェニア州全部の合計が三四万平方糎。日本は約三八万平方糎。

註九 國勢調査の「工業地域」三三區の總人口は四四、一一六千人。そのうちこの工業地帯内に分布する二四區の人口は合計三五、五九四千人。

註一〇 キャンサス州面積は二一三万平方糎。

註一一 例へばアルジェンティナのパンパは約六五万平方糎、ブラジルの咖啡と棉花の最も密集して生産さるサンパウロ・リオデジャネロ・エスピリトサントの三州の面積は合計約三五万平方糎である。然し乍らブラジルでは他に重要な専門化した地域がない。またアルジェンティナでは、パンパの西側から北へのびる小麦地帯と、北に接する玉蜀黍地帯とがあり、孰れもパンパより遙かに小さいが相當に広い面積を持つ。然しこの場合でも、これ等の他には重要な専門化地域はない。

第二の事實は、専門化した諸地域の中に多様性があるといふことで、これは自然的條件の多様性と密接な關係がある。濕潤亞熱帶性氣候のフロリダ及びメキシコ灣岸、地中海氣候の南部太平洋岸、極度に乾燥した山間高原地方・辛うじて小麦栽培を許す雨量を持つ大平原・適度の雨量と肥沃な土壤を持つ玉蜀黍地帯・最も長い無霜期間を持つ棉花地帯等、多様性に富んだ自然的條件に對して合理的な經濟活動が行はれるのであつて、自然的條件の斯かる多様性が一連の接續地帯をなす國土の域内に含まれることは稀である。まして一國土内に多様な専門化地域を發達させて居る國は他にない。中國や濠洲の如き、自然的條件の多様性は持つが、それが専門化地域の多様性となつては居ない。第三には、専門化地域の合計面積の廣大さが、他の國に見られぬことである。これは、國土面積に對する割合からみても相當の大きさであるが、こゝで重要なのは比率的大きさでなく、絶對面積である。國土に對する比率から云へば、日本・獨逸・丁抹・和蘭・白耳義等、面積の小さい國土のよく開發された國では、恐らく高い比率で専門化地域を持つであらう。従つて米國の場合、その特色となり得るのは、斯かる地域の絶對的面積である。これは先づ第一に

國土の廣大さ、第二には餘り複雑でない地勢、第三に緯度に對する位置といふ條件の上に、米國の經濟的發展が作り上げた成果である。これに對して他の大面積國は、經濟的發展も後れて居り、自然的條件の不利な點もある。例へば濠洲には大きな砂漠があり、(註一二)ソ聯邦には廣大な極寒地がある。

以上三つの事實によつて、米國經濟の地域的構造は他國に見られぬ特色を持つので、これを米國型の地域的構造と呼ぶことが出來やう。

註一二 テーラー教授が、ケッペン氏の作製した地圖に基いて、各砂漠の面積を計算した結果に従ふと次の如くであり、同一標準から砂漠と判定される面積が、略々國土面積の等しい米濠の間で非常にちがふ。即ち、サハラ六、七三四万平方糎、濠洲二、八四九、トルキスタン(新疆)二、三三三、アラビヤ British Settlement. p. 101.)

第二節以下こゝまでの記述は、それが餘り簡單である爲めに、米國經濟の地域的分業が極めて徹底的に而して好ましい形で行はれて居るといふ印象を或は與へたかも知れない。然し乍ら、事實は勿論さうでない。先づ第一に、各地域の境界には當然漸移地帯があつて、専門化はそれ程でない。第二に各地域には必ず或る程度の地元向の工業例へば印刷・新聞・電氣・瓦斯の如きがあり、或は近郊型農業もあつて、一切の物資が各地域で分業的に生産されるといふのではない。第三には、各地に貧農が自給自足的生活をして居る。例へばケンタキ・テネシー兩州の山地には最も貧困な住民が居り、衣食住に就いて殆ど全く自給自足的生活をすると云ふ。

第四には、これ等の山地の貧農が急傾斜地に農耕を行ふことに依つて土地を惡化させることは、國家的に重大問題とされて居る程であつて、單に分業に参加しないばかりでなく、分業の發達を阻害して居る。斯かる状態は必ずしも

この地方に限らず、大平原地方にもある。また湖水地方では、森林伐採跡地で農家が貧困化し、一層この地方の衰微を齎して居る。これ等はすべて、地域的分業が經濟的見地から云つて、決して好ましい状態で行はれて居るとばかりは云へないことを示すものである。(註一三)

第五には、東北部及び西部の所得が多く、南部の所得が少いことは、社會政策的見地からみて、地域的分業が好ましい状態で行はれて居るとばかり云へないことを示して居る。南北戦争で生産力の低い爲めに敗れた南部は、現在でも北部・西部に比べて一般に生産力が低い。(註一四)

最後に第六には、斯かる不均衡のあるが爲めに、困窮者の國內移動があり、従つてこの地域的分業も或る程度不安定な状態にあることを注意せねばならぬ。(註一五)

註一三 資源局の土地計畫委員は一九三五年に調査の結果、全國の農業不適地に在る農家戸數四五千戸が、その農地七五百万エーカー(約四千万町歩)を、森林・放牧地・或は行樂地等に轉換せしめることを希望した。(The Land Planning Committee, op. cit., p. 14.)

註一四 一九三五年に、官廳統計の所謂「南部」一六州の農家戸數は全國の五・〇割、農家人口は五・三割、販賣農作物の收入は三・三割である。(Agricultural Statistics, 1938 1939, より算出) ミュールダール教授は「全アメリカ農民の三分の一の者が、全市場にある生産の八〇%のものを作つてゐることになる。のこりの三分の二の者の中では全く考へられないほどに低い貧民的生活を營んでゐる者が多く、ことにこ

の傾向は南部においていちじるしい」と。(戦時戦後のアメリカ經濟論、昭和二二年、協同出版社刊、一三四頁) 但し私には、この三分の二は南部地方の他どの地方の農民を指すのか分らない。

註一五 バンシルウエニア大學の人口再配置研究會は、一九二〇—一九三〇年の人口移動、一九二九年の農業所得、一九二八年から二九年へかけての生活水準、一九三三年から三四年へかけての公的救済を受けて居る者の數を調査して、人口再配置の必要を認め、更に四つの主要な「問題地域」を選定して、移動すべき人口數・問題地域の人口収容力等を研究した。その四つは、南部アレチア・古い棉花地帯・北部湖水地方の森林代採跡地帯・大平原である。勿論、問題地域はこ

れだけでなく、この四つは異なる型を代表するものとして選ばれたのである。(Carter Goodrich and others, Migration

and Economic Opportunity, Philadelphia, 1936. 参照)

斯くの如く、米國內の地域的分業は、決して完全に行はれて居るわけでもなく、好ましい状態で行はれて居るとばかりは云へない。またそれは絶えず變化して行く。然し乍らこれ等はむしろ當然のことであつて、その爲めに米國內の地域的分業の事實が否定される程度のものではない。要するに斯かる諸事實にも拘らず、高度の地域的分業が行はれて居ることは否定されず、前述した三特色も決して單なる誇張でなしに、十分に事實として認められる程度に存在する。

#### 四、その生成の要因

米國經濟の極めて特色ある地域的構造が、國民經濟にとつて果して如何なる意義を持つか。これは興味ある問題であるが、ここでは先づそれが如何にして出來上つたかを考へてみたい。蓋しこの生成過程の中に、右の問題に對する回答も求められると思ふからである。

ところで、經濟活動の地理的分布・地理的定着の現象に就いては、フォンリチューネンの「孤立國」、アルフレッド・ルヴェーバーの工業立地の研究、その他諸家の研究があり、日本でも伊藤久秋教授(地域の經濟論、昭和十五年、叢文閣刊)その他多くの研究がある。それ等は孰れも、諸種經濟活動を夫々の場所に分布せしめる要因に就いて理論的に考究するものであつて、地域的専門化の問題も勿論これ等の理論に取扱はれて居る。資源委員會の報告書も明かに斯かる理論を基礎にして米國の實情を説明して居り、マッカーティ教授の研究にしても同様である。然し乍ら、上述したやうな米國經濟の地域的構造の特色を説明する爲めには、これ等の理論は十分でないと思はれる。一つの地域

を専門化させる要因が、如何にして特に廣い土地にわたつて働く場合と然らざる場合とがあるのかといふことが、米國の前述の如き特色を生成せしめた要因を研究する場合に問題となる。恐らくこれは、經濟力の相違、換言すれば經濟的發展の水準の相違から生ずると云へるであらう。然し乍らその經濟的水準の高度化が、如何なる關係に於いて、より廣い面積の地域的専門化を可能ならしめるかと云へば、それは要するに米國經濟の特殊性の然らしめるところと考へられる。この關係に就いては、詳細な歴史的研究を必要とするが、こゝでは唯々、米國經濟の特殊性を構成する諸事實のうちで、特に關係ある側面を取出して、この地域的構造を形成した主要な要因として、少しく考察してみたいと思ふ。

先づ基礎的條件として、米國の自然的條件を挙げねばならぬ。第一には、國土全體として比較的單純な地勢を持つこと、それに従つて各單位地域も、廣い面積にわたつて自然的條件の統一性を持ち得ること、第二には、この單位地域の統一性に對して、國土全體としては氣候・土壤等に於いて多様性に富むこと、第三には、廣大な國土を可能ならしめる廣大な陸地の廣がりを持つこと、第四には、これ等の條件の上に經濟が發展し得る爲めに必要な諸條件、即ち農業に適した氣候・地形・土壤、工業に缺くことの出來ぬ鑛産原料、全土の交通を比較的容易ならしめる平野・河川・大湖水を含む地勢などを十分に持つことを挙げねばならぬ。これ等に就いて詳述することは省くが、こゝに關係のある基本的事實即ち、主要農作物の分布が如何に各地方の自然的條件に適應した形をとつて居るかの記述は、經濟地理書を開けば至るところに見出される。これ等の記述は地域的構造を説明しては呉れないけれども、個々の主要農作物が適地に栽培されて居ることは十分明かにして居る。

ところでこれ等の基礎的條件の上に、米國經濟の地域的構造が持つ特色を生成せしめた要因は何であらうか。次にその最も主要なるものと考へられる四つの要因を挙げてみよう。

先づ第一には、強力な統一力を持つ經濟活動の中樞が、全國の經濟的發展と共に發達して來たといふことの中に、主要な要因の一つが見出されると思ふ。最初、東部に英國系統の植民地が確立され、次第に西方へ開發が進むに従つて、先づ東部地方が中樞となつた。然し乍ら同じ東部地方でも、南部が農業地帯として停滯したに反して北部が工業的に發展するに及んで、利害の對立を來たした。經濟的中樞は北部に次第に確立され、南北戦争はそれを不動のものとした。斯くしてこの中樞は、大體に於いてポストンから紐育・費府に至る間の地域を占めたのであるが、その後西部へ擴大され、現在では、恐らくシカゴ以東の工業地帯の大部分がそれに相當すると考へられる。蓋し全國の經濟が地域的に膨脹し量的に増大したのに對して中樞の機能を果すには、この地域もまた膨脹せねばならなかつた筈である。(註一六)この中樞地域は、巨大な人口と商工業とを背景とする購買力が全國の生産を支配し、その資本と工業とが鐵道・自働車等の輸送手段を與へ、農業に機械を供給し鑛山を開發し、或はそれ等に金融を行ふ等、全國經濟の中樞たる機能を果して居る。勿論、この地帯の經濟力は、國外市場と共に國內の大市場によつて涵養されたのであるから、この地帯と他の全地域の發達との關係は相互的ではあるが、それでもこの中樞の統一的作用は否定出來ない。

經濟的な中樞が斯かる地理的な形態をとつて居ることは、全國の地域的分業の形態に重要な關係がある。商業・工業・金融の諸活動が集中して居るこの工業地帯が發達した原因は、マッカーティ教授が工業立地論的に詳述して居るが、こゝにそれを紹介する必要はない。唯々この中樞地域の形態と他の地域との關係がこゝでの問題である。即ち全國各地域の分布状態は、この中樞地域を中心として合理的な配置を大規模に作り出して居ると考へられることである。それは、第三節に記述したことであるが、食料・原料物資の生産地・加工地・消費地の分布状態にも現れて居る。

り、更に鐵道による貨物輸送の流れにも見られる。即ち遠距離貨物輸送の流れには、この地帯へ全國から集まる物資・この地帯から全國へ出る物資が最も多いことが現れて居る。(National Resources Committee, op. cit., pp. 36-38. 参照) 若しもこの中樞地帯が斯くの如く一個所に集結せず、數個所に分散して居たならば如何であらうか。これは難しい問題であるが、一應單純な考へ方をすれば、全國土の地域的構造は複雑とならざるを得ないから、恐らくその爲めに若干の不經濟が生じること、一つの大きな工業地帯の代りに二つ以上の比較的小さな工業地帯を持つ爲め、大規模生産の利益の失はれるものがあらうといふことが想像される。要するにこの工業地帯が強力な中樞として成立して居ることは、全國土の地域的構造を支配して居るのであつて、一つには分布形態との直接の關係に於いて、二つには斯かる大規模な地域的構造を可能ならしめる生産力の發源地であるといふ間接の關係に於いて、支配して居る。殊に米國の工業が國內市場と外國資本とに依存して發達したことを思へば、工業地帯と他の地域との間に斯かる緊密な關係のあることは明かであらう。

註一六 この工業地帯よりは多少廣くなるが、ニューヨーク州・中部大西洋・東北中央區の三地區一四州内にある工業の發達した郡(國勢調査の「工業地域」に關する郡の他に、工業の發達した郡を加へたもの)の賃銀労働者数は、全國の

斯かる郡(二〇〇)の賃銀労働者總數に對して、一八九九年に八六六%、一九二九年に八三〇%、一九三五年に八二〇%であつた。(National Resources Committee, op. cit., p. 57.)

第二の要因としては、交通機關の發達が擧げられる。鐵道・自動車・河川及び湖上航路・沿岸航路等が、距離を克服して遠隔の地方を相互に結び着け、全國土を組織的な一體としたことは特筆するべきである。水路が國內奥地に廣く分布する自然的條件は先づ第一に利用され、イリノイその他の運河が作られた。次に鐵道が現れ、更に今世紀に入つて自動車が見られた。元來、一國の經濟的發展と交通機關の發達とは、當然に相伴ふものである。然し米國の場合には、

特に重大な役割を演じて居ると思はれる。それは、他の大面積國に比較して米國の鐵道網が著しく發達して居ることから推して明かであらう。(註一七) また自動車の普及度が著しく高いことは、周知の事實である。而して鐵道と自動車と水上輸送とが競争し乍らも併立を續けて居ることは、その事實だけで、これ等が大面積國の距離克服に價値ある仕事をして居ることを考へさせる。(註一八) 更に米國の鐵道史に於いて、一八九〇年までに、全國の緊急的需要を一應充足し得る程度に普及し終つたこと、即ち米國が現在の發展を見る半世紀も前にその程度の普及を見たことは、如何に鐵道が米國の發展に貢獻したかを窺はせる。(註一九)

註一七 大面積國の國土一〇〇平方千米當の鐵道營業料數は次の通りである。米國四・九料、印度一・五、アルジェンティナ一・四、カナダ〇・七、濠洲〇・六、ソ聯〇・四、ブラジル〇・四、中國〇・一。小面積國では英本國(一三・四)白耳義(一五・九)の如く密度の高い國があるが、國內に人口稀薄地も當然に持つ大面積國として、戦前の日本(六・三)と大差ない料數を持つては、實際には非常な密度を物語るのである。(拙著「經濟地理」慶應義塾大學講座、經濟學昭和十八年、慶應出版社刊、二二—五頁参照)

註一八 他國と比較して特に斯かる高い密度を持ち、しかも自動車をも非常に多く持つことは、米國民にとつて、諸種費用のうち輸送費が比較的廉いのではないかと推測させる。コリン・クラーク氏の計算によると、米國の鐵道運賃は他國に比して非常に廉い。一、〇〇〇噸料當りの料金を比較する

と、獨逸を一〇〇とすれば、米國は二四、スウェーデン六四、デンマーク七四、濠洲八一、フランス一〇九、白耳義一一五、英國二二〇、ニュージーランド一二七、伊太利一五八、である。それにも拘らず、總收入中の利子・利調の割合はかなり多い。(經濟的進歩の諸條件、金融經濟研究會譯、昭和二十年、日本評論社刊、三八〇—二頁)

註一九 一八九〇年までの一〇年間に、一一三合料が建設された。同年まで料數會計は二六二千料、その後一九二〇年までに四〇七千料となつたが、その後は却つて減少して居る。最初の建設は一八二〇年代末期に始まつたのだから、六〇年余りの間に、鐵道網を一應完成してしまつたのである。E. R. Johnson and T. W. Van Metre, Principles of Railroad Transportation, New York, 1926, pp. 22, 32.

第三の要因は、國土が新しい土地として開發され、しかもその新しい土地が、國力の増大に従つて増大して行つた

ことではないかと思ふ。一八〇三年にルイジアナ買収によつてそれまでの國土と略々同じ面積が増加し、一八一八年にはフロリダを加へ、一八四五年にはテキサスを、翌年にはオレゴンをも、更に四八年にはキャリフォルニア・アリゾナ・ネヴァダ・ユタの地域を加へた。若し廣大な國土が、古くから人口の定着を見、長い年月の間に除々に人口の増加と經濟的發展を遂げた土地だとすれば、必ず幾つかの經濟的中心地が出来、そこに諸種の産業が分布して、結局、現在のやうな全國土が一つの組織に結び着けられてゐる状態でなく、幾つかの組織が成立して居たかも知れない。然るに、既に大量な農産物の海外貿易も行はれる時代の人間が廣大な新しい土地を開拓したのだから、最初から商品生産を目的として開發されたのである。尤も極めて初期の少數の開拓者は必ずしもさうでなかつたが、それから後の多數の定住者は、南部では主として棉花と烟草の生産に、北西部では東部と南部へ供給する食料の生産に従事した。(註二〇)

も一つこれに關連して重要なことは、地域的専門化を來たした主要な原因が經濟的競争にあり、廣大な新しい土地を自由に得られた爲めに、この地域間の經濟的競争が十分に行はれたといふことである。換言すれば、地域的専門化が最も低廉な費用を意味するといふことになる。即ち一般に新しい土地は、最初粗放的に耕作され、人口増加するに従つて集約的な耕作に移るが、その間に他の新しい土地の粗放的耕作が始まつて居り、その競争に負けることになる。(註二一)而して同様な關係は他の産業に見られるのであつて、農業の場合に新しい土地が自由に得られたのと同様に、工業の場合には、内陸人口の増大と共に、工業を成立させる新しい地盤が豊富に供給されたのである。斯くして製鐵業の西漸、綿業の南部への移動はその最も顯著な例である。(註二二)鐵道建設が短い年月の間に急速に進められたこともまた、斯かる競争が十分に行はれることを可能にしたと云へる。(前掲註一九參照)

註二〇 中西部の定住者には、最初輸送の便宜を持たぬ地方の者もあつたが、その頃ですら既に商品生産に従事して居た。即ち彼等は、生畜(牛・豚・羊)を連れて市場まで出かけたのである。そして運河・鐵道が開通してから穀物を供給し始めた。(H. U. Faulkner, *American Economic History*, New York, 1924, pp. 229-30.)

註二一 例へばニューイングランドの農業は、一九世紀初期まで自給自足であつたのが、工業の勃興と共に根菜類・羊毛・肉牛肥育等に専門化した。然るに間もなく西部からの羊毛・牛肉・豚肉の競争に會ひ、再び轉換して酪農業に専門化するに至つた。同様に小麦栽培の中心地も漸次西へ移つた。一八六〇年には小麦の大部分がミシシッピ河の東で生産されたが、一八九〇年には同河以西の各州に一大中心地が出来て居る。(Ibid., pp. 232-3, 448-9, 參照)

坑の山元で作る炭を使ふやうになつてから、アリゲニー土地を越えた地方が有利になり、一八九〇年までにはピッツバーグ・ヤングスタウン地區が主位を占めるに至つた。この地區の主位はその後動かないが、一八九〇年以後、更にシカゴ・クリウランド・デイトロイト等の西方中心地が發達した。綿業の場合でも、南部に起こつた綿業地方は、一九三三年まで高級品に就いても大部分を生産するに至つた。その他、農業機械製造業が、ヴァージニアからシンシナーティへ、更にイリノイへ移つたこと、東部の製靴業中心地の他に新しい中心地が、セントルイス・シカゴ・ミルウォーキーに出来たこと、等が著しい例である。(G. E. McLaughlin, *Growth of American Manufacturing Areas. A Comparative Analysis with Special Emphasis on Trends in the Pittsburgh District*, Pittsburgh, 1938, pp. 217-8.) これ等々の移動が、すべて生産費のより低い土地へ向つて起こつたことは云ふまでもない。

最後に第四の要因として、米國經濟の特殊な發展を擧げる必要があらう。鐵道・自動車の異常な發展も、この特殊性を構成する重要な要素であるが、交通機關一般の發達が特に基本的要因と考へられるので、これ等を第二の要因として前に掲げた。これ等の他に、米國經濟の發展の特殊性を構成する要素として、食料加工方法・食料及び礦物輸送方法(註二三)種々の労働節約機械の特殊な發達等があり、これ等も米國經濟の地域的構造に於ける特色の重要な要因である。而してこれ等を一貫してその根底にあるものは、大規模生産の様式である。この大規模生産の様式は、工

業に於いて最も發達し、他の産業にも普及して居り、遙かに低い程度にはあるが農業にも發達した。その結果、各地方産業に於いて全國又は世界の市場を目的とする生産が行はれ、全國各地域は經濟的に愈々緊密な關係に置かれた。斯くして全國土にわたる大規模な地域的構造が出来上つたのである。大規模生産の一つの基本的側面は、比較的少い而して比較的技能の低い労働力と大なる資本とを組織して一人當多量の生産を可能ならしめる點にある。比較的に少い米國民が廣大な國土を急速に開發し得た重要な要因の一は、實にこの大規模生産様式の發達である。(註二四)

註二三 一八八〇年頃、シカゴに家畜の屠殺及び食肉の調製を大規模に行ふ經營が現れた。これは從來、地元市場しか對象とし得なかつたこの事業を、自己所有の冷蔵貨車を用ひて遠隔の大市場へ結び着けた。製粉業でもやはりこの頃に新しい技術によつて、生産が大規模化した。即ち製粉中心が西漸して、一八七〇年にミネアポリスにも幾つかの製粉所が出来たが、それから間もなく同市に於いて、穀の篩別純化機が使用され、續いて自働ロール製粉機が使用されるに至つた。この鐵製ロールに依つて、この地方の硬粒小麦が始めて完全に製粉され、その技爲めにこの種類が栽培される大平原の小麦地帯の開發を促したことは重大な事件であつたのだが、とに角これに依つて生産が大規模化し、同市の生産高は、一八七六年に一日二四二バレル、一八八〇年に五七八バレル、九〇年には一八三七バレルと急増した。

小麦の他の穀物に對するエレヴェーター式倉庫は米國に發展したものである。エレヴェーターは單に倉庫でなく、農家から穀物の買取・貯藏・發送と共に、時には多少の加工を行ふものもあり、更にその過半が農家に對して雜貨の小賣を兼營する。技術的には、これによつて穀類を袋に入れずに取扱ふ點が特に重要である。即ちこれによつて小麦はより安く市場へ提供されるのである。その反面に於いて期かる施設は相當に多量の産地でなければ行はれ得ぬことは云ふまでもない。穀類の大集散地にあるものを除いて、これ等エレヴェーターの平均收容能力は約四万バレル、一年の取扱高は一〇万以下のものから一〇〇万バレル以上のものまであり、平均は約二五万バレルである。一年二・五万バレル以下では利潤が生じないと云はれる。(D. W. Malott and B. F. Martin, *The Agricultural Industries*. New York, 1939. pp. 98-100, 225-8, 243. 參照) 輸送に就いても冷蔵貨車・冷蔵自働

車等の使用が重要な役割を演じたことは云ふまでもない。その他、大量貨物の能率的な取扱に就いて特殊の發達がある。例へば、シユピリア湖地方の鐵鑽石は、専用の貨物船一雙に一萬噸を一時間で積込み、到着港ではそれを五時間でおろすと云ふ。(C. F. Jones, *Economic Geography*. N. Y., 1935. p. 318)

註二四 例へば自働車工業は、一九一〇年から一九一九年に至る發展期に、工作機械を扱ふ熟練工の不足に悩み、遂に熟練労働を不要とする作業方法を案出した。これは他の工業にも

應用され、熟練工の供給が不足する新しい土地に工業が勃興した。斯かる種類の工業に屬するものに、セントルイス及びミルワネキーの製靴業、南部の織維工業、ウイスマコンシンの製紙等がある。(R. H. Lansburgh, *Recent Migrations of Industries in the United States*. The Annals of the Amer. Academy of Political and Social Science. March, 1929. pp. 298-9.)

この他、大量輸送の特殊施設・大型農業機械の發達等、すべて大規模生産に伴ふ労働力節約の顯著な例であらう。

以上、極めて不十分ながら、米國經濟の地域的構造に特色を與へて居る要因と考へられるものを考察した。これ等の要因が、諸種經濟活動の夫々の立地要因の作用に重なつて作用し、自然的條件の下に複雑な歴史的過程をとつて、上述のやうな特色が生じたのだと思ふ。今これ等の要因と前述の特色との關係を要約して述べてみれば、先づ第一に單位地域が廣大である點は、(一)全國土が一つの中樞地域を中心とした地域的構造を作つて居り、全體が比較的單純な形をとること、(二)交通機關の高度の普及と(三)新しい土地が開發された事實と(四)大規模生産様式との爲めに、自然的條件に就いて統一性のある地域の全域にわたつて専門化が及んだことに基く。第二に各地域間の多様性は、(一)中樞地域に工業が集中して他の地域は工業以外の諸産業を分布せしめる必要と能力とを持つたこと、(二)交通事業の發達(三)新しい土地の豊富な供給(四)大規模生産によつて地域間の十分な協力と競争とが行はれ、各地域の自然的條件・社會的條件に順應した適地適物の状態が齎された結果である。第三の全地域の廣大さは、(一)中樞地域の商工業力の大きいことが廣大な國內市場を持つたことを可能としましたこと、(二)交通機關の普及と(三)國土の急速

な膨脹とに依つて全地域は廣大な面積に擴げられ(四)この過程を大規模生産の組織力と機械力が促進したことに基くと考へられる。

この關係を更に簡単に云ひ直すと、要するに前述のやうな特色は、(一)高度水準の經濟と(二)新世界としての發展、即ち廣大な土地と高い文化を持つ少數の人口とからなる國土としての發展と(三)豊富な自然的資源との三者の綜合として生れたと云へやう。蓋し、商業工業の發達した中樞地域を持つことは、經濟が高い水準に發展して居ることを意味し、新しい廣大な國土を持つことは、新世界の植民地として開發された爲めである。また、鐵道・自動車の普及及び種々の特に米國的な生産方法・輸送方法の進歩發達は、通常の經濟的發展と新世界の特色の成長との結果である。而して自然的資源は、高水準經濟に伴ふ高度技術と多額の資本及び米國的なる方法によつて開發されたのである。これ等の結果が、自然的條件・社會的條件に順應する地域的専門化となり、同時にそれは、大規模な地域的分業を構成することになつた。

#### 五、その米國經濟にとつての意義

米國經濟の地域的構造が、結局、(一)經濟の高度の發展、(二)その新世界としての發展、即ち廣大な土地と高い文化を持つ人口とが結合することから生ずる特殊の發展、(三)豊富な自然的資源、といふ三つの事情の綜合として形成されて居るとすれば、この地域的構造は、一應米國經濟の特殊性の所産と云ふべきであらう。然し乍ら同時にこの地域的構造は、國民經濟がその中で營まれる家屋の如きものであることも明白である。國民がその中で經濟を營む都合を考慮してそれを作つたのであるが、出來た家屋はその中の活動を助長し或は制約するといふ關係にある。米國民は、その植民地時代から現在までの間に、その經濟的發展に従つて幾度かこの家屋を建直して來た。現在の家屋もそ

れが建直される時が來るであらうが、その時までは國民經濟を助長し或は制約するのである。

然らば、米國經濟に對してその地域的構造は如何なる意義を持つか。假に日本の場合を考へてみると、全體として地勢が複雑で、氣候と地勢から云つて經濟活動に有利な海岸線を、長い距離にわたつて持つ國であること、しかも歴史の古い國であることは、全國に幾つかの經濟的中心地を作つた。そして全國が狭い分業地域から組織され、例へば關東地方と近畿地方とをみると、兩方とも重工業地區を持ち輕工業地區を持ち、蔬菜の生産地も米作地も持つて居る。自給自足的に完成して居るわけではないが、多種類の分業地域を包含して居る。斯かる場合に、それ等の分散した小地域から同一種の原料或は食料を大量に集荷することは、他の條件が等しい限り、米國型の場合より高價である筈である。逆にこれ等の地域へ同一種の商品例へば同一種の肥料の如きものを配給する場合も同様である。これに反して米國型の構造が大規模生産を有利にし、従つて生産費を低下させることは、前述の食肉調製業・穀物倉庫等の例で明かであらう。即ち同種の經濟活動の大重な地域的集中がこれ等の施設を可能ならしめるのである。同様な事情はまた、農業地の中心になる農産物集散都市とその商業圏内の農業との關係に就いても認められる。このやうな都市には農家に對する諸種の商品及び勞務の提供があり、或は金融業・農産物取引所等の施設があるが、それも農業地に専門化がある場合にそれだけ十分な施設が可能となる。米國では近年、農家の貨物自動車使用が増加し取引地が擴がつて、遠くのエレヴェータへ穀物を販賣し、これが主要原因の一つとなつて、全國エレヴェータの總數は減少しつつあると云ふ。(Malott and Martin, op. cit., pp. 225-6.) 即ち益々大規模生産の原理が適用され費用が節約されて居るやうに見える。

このやうな事實は、大規模な地域的分業が大規模生産を有利に行はしめる爲めの重要な要素であることを示す。即ち大規模な地域的分業は、大規模生産の所産でもあるが、同時にその不可欠な要素と云へる。或はむしろ、大規模生

産の地理的形態と云ふべきかも知れない。まことに米國經濟の地理的形態は、單なる個々の企業單位に於いての大規模生産ではなしに、國民經濟全體が一單位として大規模生産の體制に組織されて居るやうに感じさせるものがある。日本のやうに狭い専門化地域が多種類にわたつて一地方に混在するところと米國型との間には、單なる大きさの違ひだけでなく、生産力の相違がある。米國型は單に日本型を擴大しただけのものではない。

ところで、地域的分業が行はれることには、も一つの利益が伴ふ。それは即ち、各地の地理的條件に適した専門化が行はれることに依る利益である。第三節にも述べたが、地域間の經濟的競争の結果、その經濟活動に一層適した地理的條件を持つ地域がその活動に専門化したのであつて、要するにこれに依つて生産費を低下させて居るのである。但しこの場合の利益は、一専門化地域の面積の大小とは、重要な關係がない。従つて大規模な地域的分業に伴ふ特殊の利益は、この方面では大きくはない。然し乍らこの利益は最も基本的重要性を持つものであつて、例へば資源委員會の報告書は、第四章「地理的構造」の終りに次のやうに云つて居り、地域的集中の利益には却つて言及して居ない。即ち「全國にわたつて高水準の生活を發達させ得たのは、一部分、資源の多様性が生産の専門化を可能にするからである。即ち一地方が棉花生産に、他の地方が小麦に、他の地方が家畜に、各々その自然的資源に適した活動に集中するからである。」と。(National Resources Committee, op. cit., p. 59.)

このやうに考へて來ると、大規模な地域的分業は、米國經濟の地域的構造が、高度に組織化され合理化されて居ることを示すものに他ならぬといふ結論に達する。然し乍らこの高度に組織化され合理化された地域的構造も、それを不安定にする幾つかの要素を包含して居ることを注意せねばならぬ。即ち前述の「問題地域」の存在、南部地方の問題、自然資源の浪費の問題の如き、その最も重要なものであらう。

題「問題地域」は、専門化して居ない地域か、或は専門化して居ても居住者の所得が著しく低い地域である。これ等の地域の状態が若しも改善されたとすれば、全體の構造に變化が起こる。然し乍らこれ等は概ね面積が小さいから、その影響も次の二問題程大きくはないであらう。

これに對して南部地方は、大規模な問題地域であつて、面積も大きく人口も多い。即ち面積も人口も全國の約三割であるが、その大部分が比較的の小農であり貧困である。(註二五)「問題地域」の多數もこの地方に屬する。しかもアラバマ山麓地帯には綿業・被服製造業等を中心とし、アラバマ州北部には製鐵業を中心として工業が勃興、テキサス州は棉花・放牧・蔬菜・果物・石油等によつて發展しつゝあるに對して、ミシシッピ河以東の所謂 Old South は窮乏し、これ等の事情は、相當に南部を變化せしめつゝあるやうに見える。

註二五 南部大西洋部・南東中部・南西中部の三地區に屬する。口は三七、八五八千人で全國の三〇・八%。  
一六州の面積は、約二三千平方マイルで全國の二九・八%、人

第三に自然的資源の浪費の問題は夙に識者の關心をひき、その保存の爲めに法律が制定され、多くの宣傳が行はれた。まことに自然的資源の浪費は、森林の濫伐、過度の作物栽培及び過度の放牧による土壤の破壊、魚類・鳥類・獸類の徒らな殺戮、最も安價に採取し得る部分しかとらぬ石炭の採掘方法、大量の天然瓦斯の空中への無駄な放出等、諸方面にわたつて居る。石炭のやうな主要資源が、生産費を廉くする爲めに、良質炭を多量に残したまゝ炭坑を廢棄し二度と再び使へぬ状態にしてしまふやうな方法で開發されたこと、地力を急速に減退させるやうな粗放的な方法で土地を利用して來た場合のあることは、殊に重要な問題を胎む。蓋しこれ等の事情は、直接に地域的分業の状態に影響する可能性を持つばかりでなく、米國經濟の基礎的部分に重大な關係を持つかも知れぬからである。まことに米國

經濟の發展は、ラッセル・スミス教授の次の叙述に見られるやうに少數の人口で豊富な資源を利用し、粗放的な生産を行つた事實に出發して居るのである。即ち「歐洲人が比較的に空虚なアメリカの土地に定着し、小麥を生産してそれを歐洲の小麥收多稔地へ送り、牧場がより肥沃で一平方哩當りより多くの家畜が居る歐洲諸國へ家畜・バター・チーズを送り、森林がより良好な状態に維持されて居る國々へ木材を輸出して來たが、これは歐洲の人口が稠密で、アメリカの人口が比較的稀薄であつたこと、そして現在でも猶さうであること」に「基づく」と。(J. Russell Smith, *Industrial and Commercial Geography*. London, 1925. p. 661. 以下) Bertil Ohlin, *Interregional and International Trade*, Cambridge, 1935. p. 27. の引用に據る。) 従つて資源保存活動が強化され土地利用法が集約化されることは免れぬ傾向であつて、例へばテネシー溪谷開發事業の如き土地生産力育成の意味で大きな重要性を持つものであり、米國に於ける土地利用法が集約化は斯うした形でも進行して居るのではないかと思ふ。

これ等の問題に就いては單にその存在を指摘して置くに止め、今これ以上述べることをやめるが、要するに地域的構造といふ形態が持つ特殊性は、内容である米國經濟が持つ特殊性に照應するものであり、吾々は尙、米國經濟の特殊性についての研究を必要とする。(昭和二二等九月二六日記)

## 無額面株について

町田義一郎

我が國の證券金融は證券取引所の業務停止、財閥の解體、獨占禁止、株式所有の制限、經濟力集中排除等々の處理に關聯して將來非常に異つたものとならざるを得ないであらう。これらの處置に伴ふ大企業の分化に伴ひ、今後の全面的な財界整理期を経て各方面の再興を見るまでには、各會社共その資金面に様々な困難を來すに相違ない。その間にはまた各會社共インフレ末期からデフレ時代へかけての資金難にも豫め備へることも考へなければならぬであらう。併し混沌たる現状と將來の見通しの不明から現在の様に、一般株價が他の諸物價に比して著しく低く、また多くは額面を割つて居る状態では、當分新株の發行或は起債は甚だ困難と云はねばならぬであらう。

またこれまでは、我が國の株式の發行が多くは緣故關係を辿つたものであつたし、新債は金融機關を中心として限られた投資家の間に保有されて來たのであつたが、將來はかかる從來の關係方面からの資金の吸收は大して期待し得ないのではなからうか。従つて證券金融は大轉換を遂げねばならぬ時期に到達して居ると云はねばならぬ。周知の通り、現在巨額の資金の集中しつつあるのは、これまで證券市場など殆んど無關係な新興の大衆方面である。此の方面を開拓する爲めに證券の大衆化を圖ることが何よりも考へられなければならぬ。これはこの變革期だけの問題でな